

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成28年8月18日(2016.8.18)

【公表番号】特表2016-515807(P2016-515807A)

【公表日】平成28年6月2日(2016.6.2)

【年通号数】公開・登録公報2016-034

【出願番号】特願2016-500351(P2016-500351)

【国際特許分類】

C 12 M 1/34 (2006.01)

C 12 Q 1/04 (2006.01)

C 12 Q 1/22 (2006.01)

G 01 N 27/416 (2006.01)

【F I】

C 12 M 1/34 B

C 12 Q 1/04

C 12 Q 1/22

G 01 N 27/46 3 3 8

【手続補正書】

【提出日】平成28年6月28日(2016.6.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0023】

【図1】本発明の実施形態を用いた使用に適切な滅菌インジケータの第1の実施形態の使用可能前の構成の模式断面図である。

【図2】図1の滅菌インジケータの使用可能構成の模式断面図である。

【図3】図1と同様の、本発明の実施形態を用いた使用に適切な滅菌インジケータの第2の実施形態の使用可能前の構成の模式断面図である。

【図4】本発明の実施形態における使用に適切な3つの電極を含む導電性ストリップの模式図である。

【図5】本発明の実施形態における使用のための試験インキュベータ／リーダーの模式図である。

【図6】本発明の実施形態による、試験インキュベータ／リーダーにおける、増殖培地に差し込まれた図4と同様の導電性ストリップとのインキュベーションの間の滅菌インジケータの実施形態の模式断面図である。

【図7】本発明の実施形態による、胞子が第1の区画内にありかつインキュベーション培地およびストリップが第2の区画内にあるバイアルを有する滅菌インジケータシステムの模式図である。

【図8】本発明の実施形態による、胞子およびストリップが第1の区画内にあるが互いに離れており、かつインキュベーション培地が第2の区画内にあるバイアルを有する滅菌インジケータシステムの模式図である。

【図9】本発明の実施形態による、胞子が第1の区画内にありかつインキュベーション培地が第2の区画内にあるバイアルを有し、そしてストリップがバイアルから離れている滅菌インジケータシステムの模式図である。

【図10】本発明の実施形態による、胞子がストリップ上にありかつストリップが第1の区画内にあり、そしてインキュベーション培地が第2の区画内にあるバイアルを有する滅

菌インジケータシステムの模式図である。

【図11】本発明の実施形態による、胞子がストリップ上にありかつストリップがバイアルから分離されており、第1の区画内には何もなく、かつインキュベーション培地が第2の区画内にあるバイアルを有する滅菌インジケータシステムの模式図である。

【図12】反応電極により生じた信号を受信し、それをデジタル信号に変換し、そしてそれをマイクロコントローラに伝達するためのデバイスの模式図である。

【手続補正2】

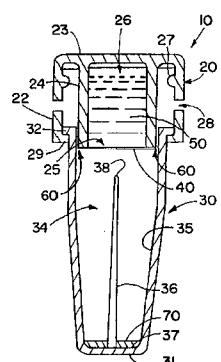
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】全図

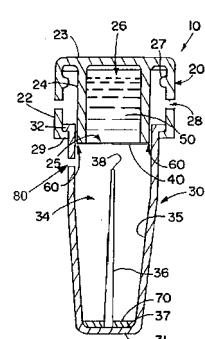
【補正方法】変更

【補正の内容】

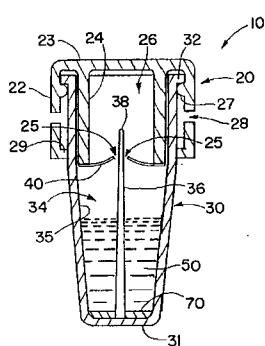
【図1】



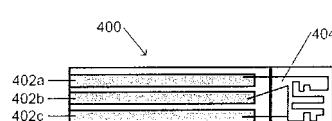
【図3】



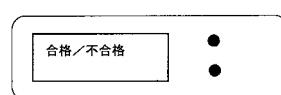
【図2】



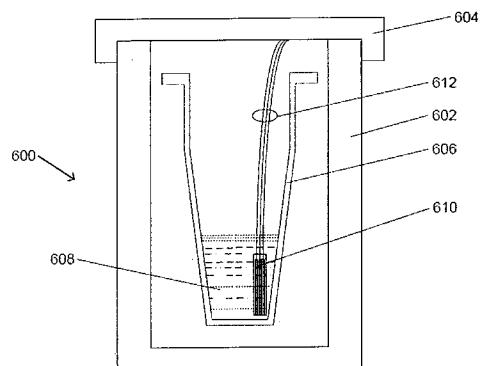
【図4】



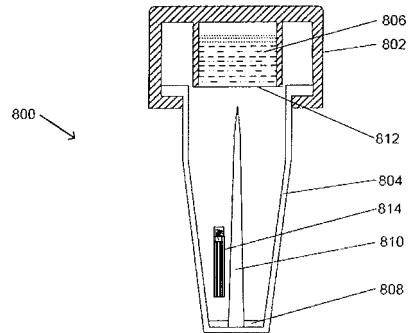
【図5】



【図 6】

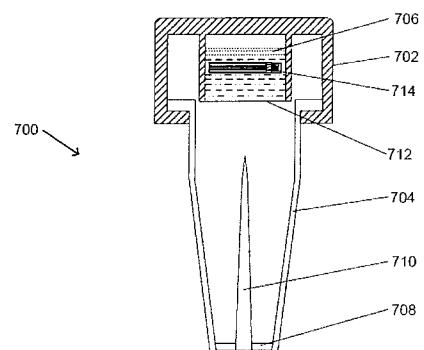


【図 8】

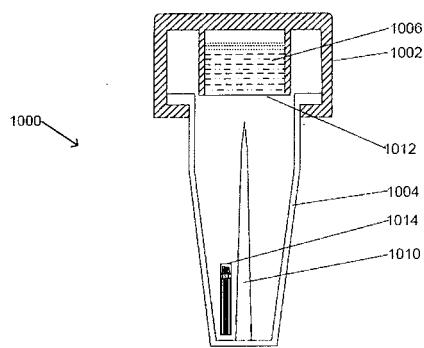


【図 9】

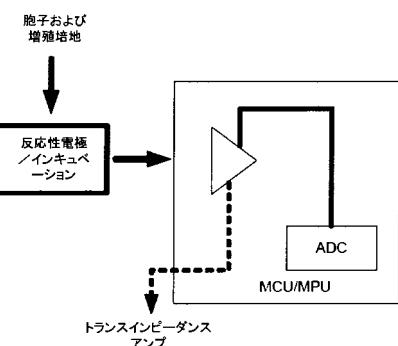
【図 7】



【図 10】



【図 12】



【図 11】

